

# 中国における家電のリユース・リサイクル

東京大学 吉田 綾

## ■はじめに

今や「世界の工場」となった中国は、その一方で世界の資源リサイクルの大拠点ともなっており、電子・電気製品廃棄物(E-waste)も中国に多量に輸入されていることが知られている。

中国は、2000(平成12)年に廃家電などの使用済み電子・電気製品の輸入を禁止し、2002(平成14)年にはその破砕品・部品を含めて輸入を禁止している。

その背景には、国内産業の保護と使用済み部品のリユースの防止、そしてリユース・リサイクルに伴う環境汚染の防止がある。

しかし、実際には、ミックスメタル(雑品)類に混入してプリント基板や黒モーターの輸入が継続しており、香港経由で中古家電の輸出が依然として可能なことから、密輸あるいは香港で解体されて中国本土へ流入していることが指摘されている。

本稿では、まず中国における国内の廃家電のリユース・リサイクルの現状について取り上げ、国内における適正なりサイクルシステムの構築に向けた取り組みとその課題についてふれる。そして、途上国の視点から、国際的な廃家電のリユース・リサイクルにおける問題点について筆者の意見を述べたいと思う。

## 中国における廃家電の発生量

中国も日本と同様、電子・電気製品の消費大国である。国家環境保護総局の推計によると、中国において年間に発生するE-wasteの発生量は約111万t<sup>1)</sup>であり、生活ごみ発生量全体の1%を占めるといわれている。中国の家電製品の保有台数は、テレビ3・5億台、冷蔵庫1・3億台、洗濯機1・7億台、パソコン2000万台、携帯電話1・9億台に上り、平均使用寿命を10~15年とすると、2003年には、テレビ500万台、冷蔵庫400万台、洗濯機500万台、パソコン500万

台と数千万台の携帯電話が廃棄されるといわれている。

## 使用済み家電の流通ルートとその行方

中国において廃品回収は、民間レベルで広く浸透し、習慣化している。図1は、中国における現在の使用済み家電の流通ルートを示したものである。

北京市内の生活居住区(社区)には廃品回収所が約6000カ所あるといわれており、プラスチック類・ビール瓶・ガラス・紙・家電製品・家具・金属くずなどが資源として有価買い取りされている。このような拠点回収ポイント以外に、三輪車の荷台で住宅地を回って道ばたで取り引きする流しの回収人もいる。このような廃品回収人は街中を練り歩いて、都市の住民がタダで捨てるには惜しいと思う使用済み家電を、その場で査定して廃品回収所より高い価格で回収していくことから、「遊撃隊」にたとえられる。

再使用可能なものは、中古市場や修理店へ売却され、再び市場で売買され

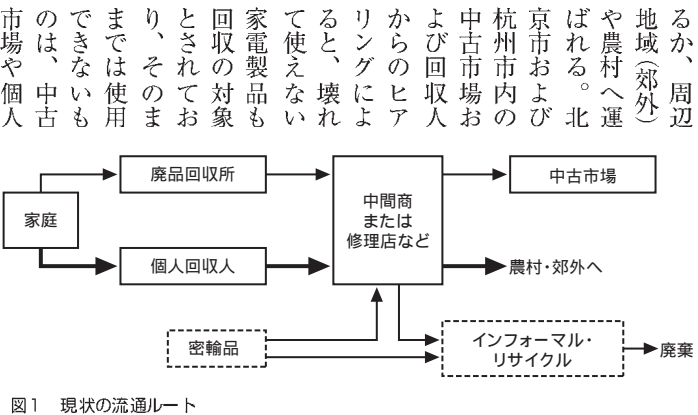


図1 現状の流通ルート



杭州の中古市場で行われている廃テレビの修理・再製造

5(平成17)年12月)市場価格に基づき1台あたり150~2000元(約2250~3000円、1元=15円で換算)で買い取られている。壊れて使えないカラーテレビでも1台20元程度で回収して、市街地郊外にある家電修理所で、複数の使えない家電の部品を組み合わせて修理する。直せないものは部品取りをして売るか、そのまま生活ごみと同様に捨ててしまうという。